

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



開花期前後に使用する植物成長剤



- 開花期から結実期はブドウ栽培の良否に影響する**最大の山場**です。
- 成功に大きく関係するのがジベレリン等の**植物成長剤の適切な利用**です。
- 主力品種の**シャインマスカット**について使用方法をまとめました(表)。
- 気象は不安定な時期となりますが、**飛散に注意しながら適期処理**を実施して下さい。

農薬名	処理時期	処理方法	留意事項
アグレプト液剤	満開予定日の14日前～開花始期(無種子化目的)	1000倍を散布または花房浸漬	散布する場合は、有核栽培品種に飛散しないようにする(隣接部は花房浸漬とする)
ジベレリン・フルメット液剤(1回目)	満開時～3日後	25ppm花房浸漬	樹勢が強くと花ぶるいの恐れがある場合は、フルメット液剤5ppmを加用する。
ジベレリン・フルメット液剤(2回目)	満開10～15日後	25ppm果房浸漬	果粒肥大促進のため、フルメット液剤5ppmを加用することがある。
フラスター液剤	新梢展開葉7～11枚時、開花始期まで(着粒増加、新梢伸長抑制目的)	1000～2000倍で、10a当り100～150L散布する。	展着剤を加用する。
	満開10～20日後、収穫60日前まで(新梢伸長抑制目的)	500倍で、10a当り150L、又は1000倍で、10a当り300L散布できる。	展着剤を加用する。



特定外来生物「オオキンケイギク」



- 草生栽培の普及により様々な種類の雑草を見かける機会が増えました。
- それらの中には**外国を起源**とするものも多く、在来種を脅かして**生態系を乱す**ものもあります。
- **オオキンケイギク**は5月以降、道端や河川敷に黄色い花をつけた群生が見られます(図)。繁殖力が旺盛なため**特定外来生物**に指定され、栽培や運搬等が禁止されています。
- もし果樹園で発見したら、**多年草で種子も残りやすい**ので、早めの抜根や除草剤処理等による**根絶が必要**です。



図 開花期を迎えたオオキンケイギク